

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ①人材養成目的に沿った科目構成の整理

##### 《理工農系》

##### ●岡山大学環境学研究科資源循環学専攻

##### 「アジア環境再生の人材養成プログラム」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

- ・本プログラムの実施に際しては、環境学研究科がこれまでに開講してきた「循環型社会形成学」に関連する科目を再整理するとともに、持続発展教育(ESD)の視点を教授する「ESD 実践論」と学内・地域・国際の各レベルにおける「プロジェクト実習」を新設し、経済社会変革を担う実践的能力を養成することとした。また、コースワークを充実し、プログラムの運営体制を強化するために、研究科の博士前期課程に「アジア環境再生特別コース」を新設した。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・「ESD 実践論」に関しては、人間と環境、地域環境文化、国際理解などの視点から、日本における持続発展教育(ESD)をリードする専門家を講師として招聘し、実践も加味しながら、環境・経済・社会の調和を目指すESDの特徴を分かりやすく伝えるように配慮した。
- ・プロジェクト実習を、「学内」、「地域」、「国際」の3つのレベルで設定し、経済社会変革の実践力を有する人材の養成を目指した。特に、「プロジェクト実習(国際)」においては、環境学研究科における海外機関との交流実績を生かしながら、循環型社会形成学の主要関連分野である廃棄物マネジメント、都市計画、地盤環境、大気環境、森林生態の各分野において、開発途上国の大学及び研究機関との連携によるフィールド実習を実施した。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・本取組に参加した学生へのアンケート調査では、物事を多面性や関連性を理解する力、多様な価値観を認め尊重する力、自ら実践する力や他者と協力して物事を進めていく力などが向上したとする履修生が多く、学生が持続可能な社会構築に貢献する人材として成長したことを示している。
- ・カリキュラムの中では、従来の講義形式に加え、ESD 実践論や実習が加わり、実践的な内容であった点が履修者に評価された。特に、プロジェクト実習(国際)に対する関心が高く、履修動機の主要因になるとともに、実習を通じた学びの効果が大きいことも示された。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

#### ①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

##### 《理工農系》

##### ●岡山大学環境学研究科資源循環学専攻

##### 「アジア環境再生の人材養成プログラム」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

- ・「プロジェクト実習(学内・地域・国際)」は、平成20年度に2名の学生が参加し、中国において「アジアの都市問題と持続可能な都市環境の調査」を実施した。平成21年度からは、環境学研究科カリキュラムに「アジア環境再生特別コース」が設置され、プロジェクト実習の取組が本格化した。平成21年度は、プロジェクト実習として4テーマが開講され、博士前期課程学生13名が履修し、中国、ベトナム、マレーシア、スリランカにおいて、プロジェクト実習(国際)を実施した。平成22年度には10テーマのプロジェクト実習が開講され、博士前期課程学生21名が、台湾、インドネシア、タイ、ベトナム、中国、マレーシア、バングラデシュ等の大学・研究機関と協力しながら、プロジェクト実習を実施した。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・各プロジェクト実習の実施に際しては、本プログラムの運営委員会で内容を精査し、段階的な実習を通じて十分な成果が得られるように配慮した。
- ・受講生が、プロジェクト実習の成果を、各年度末に実施した「アジア環境再生コロキウム」において英語で発表し、開発途上国から招聘した研究者と討議を行うとともに、成績評価にも利用した。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・アジア環境再生コロキウムに招聘した開発途上国の大学関係者からは、「ESD実践論」、及び学内・地域・国際の「プロジェクト実習」を導入した実践的プログラムに対して強い関心が示され、履修生による実習成果報告に関しても高い評価が得られた。また、岡山大学と開発途上国の大学が連携して、双方向の大学院教育プログラムを構築していくことの重要性が確認された。
- ・履修生に対するアンケート調査結果では、従来の講義形式に加え、ESD実践論や実習が加わり、実践的な内容である点が評価された。特に、プロジェクト実習(国際)に対する関心が高く、履修動機の主要因になるとともに、実習を通じた学びの効果が大きいことも示された。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### F. その他

#### ②国際シンポジウム等の開催

##### 《理工農系》

##### ●岡山大学環境学研究科資源循環学専攻

##### 「アジア環境再生の人材養成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・本プログラムの実施に際しては、各年度末に履修生による成果報告を行うとともに、事業推進における助言と評価を得るために、平成20年度～22年度の各年度において「アジア環境再生コロキウム」を開催した。開催結果は以下の通りである。

第1回：平成21年3月19日開催、10カ国から16名の研究者を招聘

第2回：平成22年2月23日開催、11カ国から25名の研究者を招聘

第3回：平成23年1月24日開催、10カ国から15名の研究者を招聘

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・学生の履修成果については、アジア環境再生コロキウムにおいて学生自身が英語で発表するとともに、開発途上国からの招聘者と討議する機会を設けた。
- ・アジア環境再生コロキウムでは、学生による成果報告だけでなく、「アジアにおける環境教育」や「持続可能社会のためのIT活用」をテーマとするパネルディスカッションも開催し、開発途上国の大学関係者との間で今後の学生交流やITを活用した交換講義などについて意見交換が行われ、有益な助言を得た。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・アジア環境再生コロキウムにおける英語による学生の成果報告や海外招聘者との討議は、受講生の国際的リーダーシップ醸成に有益であった。
- ・「アジアにおける環境教育」や「持続可能社会のためのIT活用」をテーマとする討議を通じて、開発途上国の大学及び研究機関との学生交流や交換講義について、期待と課題を把握することができた。